

## サケ稚魚・サクラマス幼魚（スマルト）放流

5月1日（金）、老部川内水面漁業協同組合（西山忠一組合長）のサケ孵化場及びサクラマス孵化場において、サケ稚魚、サクラマス幼魚（スマルト）が放流されました。

サケ放流事業は、昭和48年度にサケ・マス類の資源増大を目的に放流が始まり、その後、孵化場の整備とともに放流尾数を増大させ、毎年実施しているものです。今年も、新型コロナウイルスの影響で毎年行っている東通小学校児童の稚魚放流体験は残念ながら行われませんでした。

今回の放流では、昨秋、老部川に遡上した親魚から採卵した稚魚と、定置漁業者から提供された海産親魚から採卵した稚魚で、孵化してからおよそ5ヶ月飼育した稚魚約540万尾が放流されました。

また、サクラマス幼魚（スマルト）放流事業は、主

に沿岸海域でのサクラマスの水揚げ増大を図ると、昭和60年のサクラマス孵化場完成とともに毎年実施しているものです。

今回の放流では、平成30年8月中旬から10月中旬にかけて老部川に遡上した親魚から採卵した稚魚と、3年間飼育した池産系親魚から採卵した稚魚で、孵化してからおよそ1年6ヶ月飼育した稚魚約3万尾が漁協職員の手により放流されました。

なお、今年度のサクラマス放流は、全体で稚魚約6万1千尾、稚魚約16万6千尾、計約22万7千尾を村内の河川に放流する予定となっております。

今後も継続的にサケ稚魚やサクラマス幼魚・稚魚放流を実施することで、沿岸海域での水揚げと河川回帰の増大に、大いに期待がもてるものと思われま



放流されたサケ稚魚



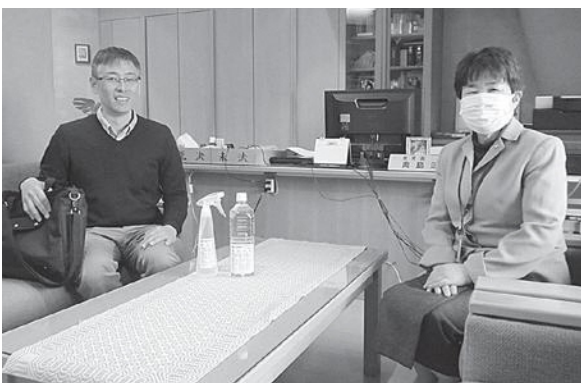
放流されたサクラマス幼魚

## 東通村に消臭・洗浄除菌水を寄付

4月21日（火）、三ツ柏さとう商店の佐藤俊介代表が教育委員会を訪れ、村内のこども園や小学校での新型コロナウイルス感染症予防対策に役立ててほしいと、自社で製造・販売しているアルカリ性の消臭・洗浄除菌水20リットル入り3箱を寄付しました。

佐藤代表は「子どもたちの教育環境対策に少しでも役立ててほしい」と話されました。

寄付を受けた奥島涼子教育長は「教育現場での感染防止対策として有効に使わせていただきます」と感謝を伝えました。



佐藤代表から寄付を受ける奥島教育長